

## 高知放送

活動名	高知放送メディアリテラシー授業
実施期間	令和6年6月～令和6年11月
実施回数	学校訪問2回・社内見学3回

### 【実施学校】

高知市立浦戸小学校、土佐市立高石小学校、北川村立北川小学校、南国市立岡豊小学校、南国市立三和小学校

### 【事業実施の成果・課題】

#### <出張授業について>

・「速報性」「正確性」「公平性」「公共性」という公共メディアの果たす役割を、「ニュースができるまで」というVTR教材を使うことで、子どもたちに楽しく学んでもらえたかと思う。特に近年テレビ媒体は「オールドメディア」と揶揄されがちだが、インターネットによるSNSの情報と比較してファクトチェックがきちんとなされた信頼性が担保されたメディアであることを知ってもらえたことが大きい。さらに近年は「テレビ離れ」が言われ、若手の離職率の高さが問題となっているが、授業の様子をテレビニュースとして取材したため、現場で取材記者の仕事の様子も見学してもらえるなど、テレビメディアという仕事について、子どもたちに関心を持ってもらえたのではと思う。

#### <社内見学について>

・小5 社会「放送などの産業とわたしたちの暮らし」の授業の一環として放送局への見学の要望があり、高知放送ではこうしたニーズに応えるため、まずは教材として「ニュースができるまで」を見て報道という仕事について学習してもらった。その後、報道フロア・スタジオ等を見学することでより深く放送について理解してもらうことができた。

### 【事業担当者・講師の感想】

#### <報道制作局長 植村浩史（講師）>

「メディアリテラシー」の授業は、利用させていただいたVTR素材がなかなか面白くてできていて、児童も興味をもって視聴した様子でした。公共メディアが果たさなければならない役割の中で、「速報性」「正確性」「公平性」「公共性」の中では、「速報性」と「公平性」が印象に残ったようで、テーマは難しいものの、ニュース制作に関する興味は持ってもらえたのではないかと感じました。

#### <報道制作部 井上琢巳（講師）>

児童たちは、動画を通してテレビ局の仕事の全般を理解したようです。

どうやってニュースが作られて、視聴者に向けて放送されるのかがわかりやすく解説されていて、テレビ局の報道記者という仕事にも関心を持った様子でした。

その中で、ニュースにおいて「速報性・正確性・公平性・公共性」がなぜ重要であるのかを、主人公の熱血太郎の失敗を通して楽しみながら理解していました。

普段、何気なく見ているニュースを何気なく受け取るのではなく、自分で考えながら受け取ることの必

要性に気付いている児童も見受けられました。

#### <総務部 澤村 徹>

今まで会社見学において、パワーポイントを用いニュースができるまでを説明をしていましたが、理解度が低く、遠足のような雰囲気になっていました。今回ビデオを用いることでメディアリテラシーというものを、子どもたちに理解してもらうことのできる内容で、大変助かりました。

SNS などのネットに溢れる情報と放送局から発信する情報（速報性・正確性・公平性・公共性）は本質的に異なるということ深く学んでいただいたと感じております。

### 【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

#### 【高知市立浦戸小学校】

##### <難波江明美校長>

・メディアリテラシーの授業では、DVD の内容が子どもたちにとっては非常に分かりやすく、情報を受け取る、発信する際のポイントを理解しやすかったのではないかと考えます。教科の学習や総合的な学習の時間において、子どもたちがタブレット等を活用して調べ学習をする機会が多くあります。情報を収集し、整理、発信するという学習過程において、今回の授業は情報を正しく読み取る、正しく発信するという視点が増えました。今後の学習活動に生かしていけるよう、子どもと一緒に考えながら取り組んでいきたいと考えます。

##### <4年生の感想>

・速報性、正確性、公平性、公共性の4つの大事なことがあったと分かった。4つの言葉は人の命を守ることができる言葉だとわかりました。編集者が2人いるくらい編集は大変だとわかりました。一方の意見を聞いたらいけないとわかりました。動物の命まで守ることができるからすごいと思った。

・逮捕する前は〇〇さん、捕まった後は〇〇容疑者というとわかりました。いろいろな種類のカメラで工夫して撮っているとわかりました。音量まで機械で工夫していろんな工夫をしているとわかりました。(女子)

・2つがわかりました。①「正しい放送」情報が嘘なのか本当なのかを調べる。②特別ニュースが危険になったら、それを注意してみんなに危険なのを知らせて、命を守ってくださいという。(女子)

・あやしい人がいてもニュースで犯人と決めつけてはいけないと分かった。3つの呼び方があると分かった。アナウンサーをするときには4つのことを守らないといけないと分かった。(男子)

・メディアリテラシーでは「速報」「正確性」「公平性」「公共性」の4つのことを記者がしていると知りました。早く放送すること。本当かどうか調べること。2つの意見を知ることが大切だとわかりました。(男子)

##### <5年生の感想>

・4つの言葉を知って、事実を伝えることや正確性がとてもテレビ局にとって大切だと分かった。そのようなことを知るためには普段からテレビを見ることやニュースを見るのが大切とわかりました。これからニュースや新聞を見るときは今日習ったことを気にかけてみたいと思います。(男子)

・なるべく早く正確に、みんなの意見をみんなのために伝えることをメディアリテラシーということがわかりました。メディアリテラシーは色んな意味が詰め込まれているということなどが詳しく分かったので良かったです。(女子)

・早く伝えることが大事だと思いました。(女子)

・メディアリテラシーについて知れたので良かった。熱血太郎が面白かった。正確性、速報性、公平性、

公共性の4つのキーワードが知れた。ニュースは信じていいと思った。初聞き⇒初耳が面白かった。(男子)

・4つの大事な事が分かったから良かった。テレビに出すために速さ、正しさがいる。そのために本当か本当じゃないかが必要で、テレビでは色々なことをして出していることが分かった。テレビでは一つのことだけでも間違っていたら取り返しがつかないということも分かった。そして色々な必要なことがあるということが分かりました。4つの大事なことでメディアリテラシーという名前ということが分かった。(女子)

#### < 6年生の感想 >

・私はニュースをよく見るけど、どんなふうにして番組が作られているのか知りませんでした。今日勉強して速く伝えなければいけないことや、正しいことかどうか調べて伝えなければいけないと知りました。(女子)

・テレビを放送するには大変だということが分かった。たくさんの方が関わっていることが分かった。楽しかった。よくメディアリテラシーについて知れた。今日放送するテレビが楽しみです。(男子)

・今日はメディアリテラシーについて教えてもらって、メディアは知っていたけどリテラシーについては知らなかったので今回教えられてどういうことなのか分かりました。今日は教えてくれてありがとうございました。(男子)

#### 【土佐市立高石小学校】

#### < 弘瀬直美校長 >

・メディアリテラシーについて学ぶような機会はこれまでになく、テレビ局などの見学もしていない本校では自分たちの知らない世界を見ることでこれからのテレビの見方も変わるだろうと思わせる内容でした。動画はコンパクトでしたが、おもしろおかしく失敗を重ねる熱血君から学ぶことがたくさんありました。1時間の授業ではもったいなく、総合的な学習などで單元化できたらもっと子どもたちのものになるかと思いました。このような機会をいただきありがとうございました。

#### < 5年生の感想 >

・まず動画を見ました。「ねっけつたろう」というキャラでいろいろやらかしていたので、ひやひやしながら見ていました。ニュースで大切なことも知れました。証拠がなかったら怪しい人も犯人扱いしないことやそのことをニュースに出すのはダメなこと(正確性)ややらせでこけることなどはダメということが学べました。(男子)

・まず「メディア」ということと「リテラシー」という言葉を知りました。次に動画を見ました。動画では「速報性」「正確性」「公平性」「公共性」というニュースをつくる時に大切なことを学びました。(男子)

・井上琢己アナウンサーは明るい人だったので、楽しくできました。ニュースは事件や町や村などの話題を取材します。ニュースでは現場の映像をとったり、様子を見た人に取材をしたりします。取材では有罪が確定するまで犯人扱いをしてはいけない、一方の意見だけを取り入れるのはダメだということがわかりました。(男子)

・動画を見て、4つのことが大事だとわかりました。その中で過剰な演出はダメなことや、うらを取るは本当か確かめること、逆取材はもう一方も取材することなどが分かりました。(女子)

#### < 6年生の感想 >

・ニュースキャスターはいろんな人のために情報を集めたり、わかりやすく伝える事を頑張っていることがわかりました。これからは事故にあって苦しい思いをしている人たちがいるから、ニュースをしん

けんに見ようと思いました。(女子)

・ニュースに必要なことは速報性、正確性、公平性、公共性ということがわかった。これまではニュースをつくるのは簡単だと思っていたけどこんなに大変だということがよくわかった。(女子)

・いつも見ているニュースがどうやってできるかが分かった。今まではアナウンサーとカメラマンと記者しかいないと思っていたけど、いろいろな人が関わってニュースができていることを知って驚いた。

(男子)

・ニュースをつくってテレビに放送されるまで時間がかかることがわかりました。公共性などは人の命を守るためにあることだったからびっくりしました。ニュースをつくる人が報道記者ということもわかったし、報道記者がどのようにしてニュースをつくっているかわかりました。(男子)

・アナウンサーなどは活舌やイントネーションが大切ということがわかった。(女子)

・説明だけでなく 15 分の DVD を見せてくれたのですごくわかりやすかったです。中継先のアナウンサーを注意することなどすごくたいへんだなあと思いました。(男子)

・ニュースは見ている人にしっかりと伝えないといけないため、しっかりと内容をまとめないといけないことが分かった。ニュース関係の人は忙しいことが分かった。(女子)

### 【社内見学】

#### <北川小学校 教諭の感想>

・ニュースになるまでの流れが分かり易く、笑える部分もあり飽きずに見ることが出来ました。

#### <北川小学校 児童の感想>

・ニュースを作るときに、「速報性・正確性・公平性・公共性」が大切なことが分かりました。

・学校で動画を作成するときの参考になった。

・やらせはいけない

・イントネーションにも気を配らなければならないことが分かりました。

#### <岡豊小学校 教諭の感想>

・「速報性・正確性・公平性・公共性」に注意しニュースが作られていることが理解できました。

#### <岡豊小学校 児童の感想>

・場合により「氏」「容疑者」など呼び方を変えなければならないことが分かりました。

・一方的な意見の内容はいけない、本当に正確情報なのかの確認が必要なことが分かりました。

・テレビはインターネットと違って、正確な情報を伝えなければならないことが分かった。

#### <三和小学校 教諭の感想>

・局の方々の対応がとても親切で、ビデオの内容もわかりやすく、実際にテレビでよく見るスタジオの見学や、アナウンサーとのふれあいもあり、とても楽しめる内容でした。

#### <三和小学校 児童の感想>

・言葉の間違い（アクセントやイントネーション）を普段の生活から気を付けていきたいと思った。また、「初耳」を「初聞き」と間違わないように正しい日本語を覚えていきたい。

・情報を素早く正しく伝える大変さを知った。